

# ごみの増加がもたらすもの



人けの少ない林に捨てられたごみの山…不法投棄は後を絶ちません。一部の人の勝手な考えで行われる不法投棄は、景観を損ねるだけでなく、かけがえのない大切な自然環境を汚染することもあります。

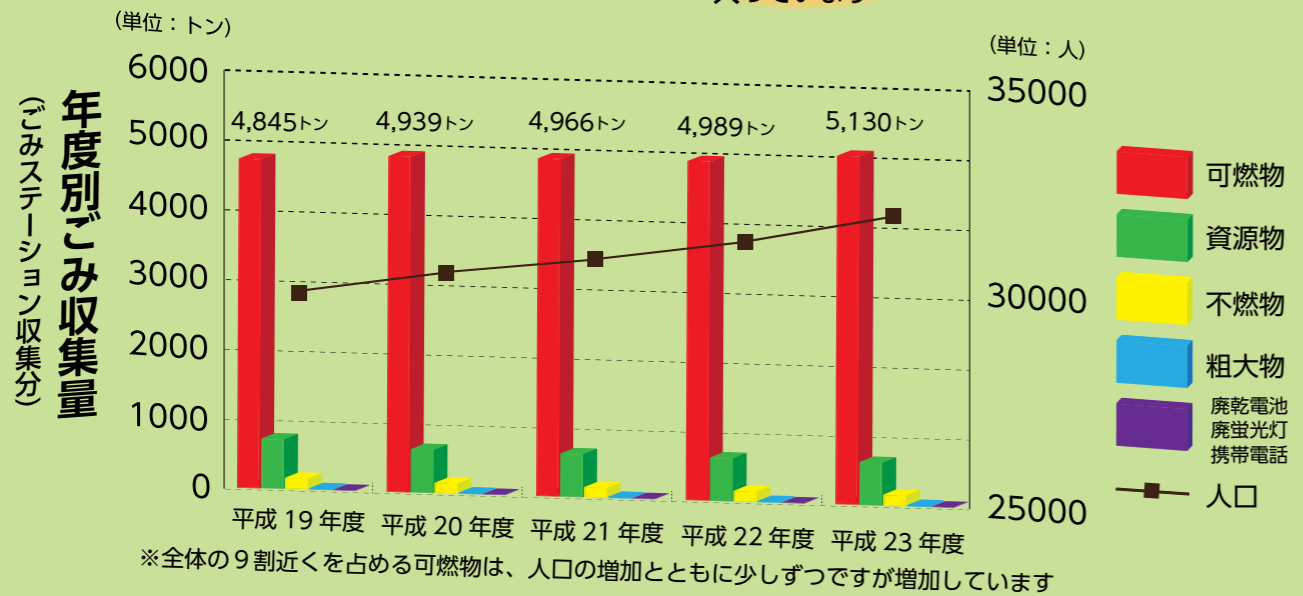
ごみの増加は不法投棄を誘発するだけではなく、地球環境にも悪影響を与え、高額な処理費用も必要になります。

【注】不法投棄 法律（廃棄物処理法）に定められた場所以外（原野、山林、空き地など）に廃棄物を捨てること。違反者には5年以下の懲役または1000万円（法人は3億円）以下の罰金が科せられる。



プラスチックが入っています  
ごみステーションに出された可燃ごみ袋を見てみると、プラスチック類やダンボールなど、本来、資源として再利用できるものが混入している袋もまだまだ見受けられます。  
分別を徹底すると、リサイクルの推進だけでなく、可燃物の量が減り、温室効果ガスである二酸化炭素（焼却時に発生）の排出を抑制することが出来ます。

ダンボールが入っています



## 地球にごみが増えた理由

イギリスを発端としてヨーロッパを中心に18世紀から19世紀にかけて起こった産業革命以降、機械を使って「大量生産」された工業製品を「大量消費」することで、世界の経済は飛躍的に発展し繁栄を続けてきました。

この発展の原動力となったのが石炭や石油などの化石燃料や鉱物資源（鉄や銅など）です。その使用量は経済の発展とともに加速度的に増加していきました。しかし、化石燃料や鉱物資源は有限であり、いつか枯渇してしまうものです。このような限りある地球資源が、私たちの現在の豊かな暮らしを支えているということを改めて認識しなければなりません。人類は、地球の長い歴史の中のとて短い期間で、温室効果ガスであるCO<sub>2</sub>（二酸化炭素）の大量放出を続けてきました。その結果、人間活動によって排出されるCO<sub>2</sub>の量は森林などによるCO<sub>2</sub>の吸収能力を超えてしまい、地球温暖化の大きな原因となっています。

日本でも昭和30年代からの高度経済成長を契機として、「大量生産・大量消費・大量廃棄」型の経

済社会を迎え、ライフスタイルが大きく変化しました。物が少なかった時代には「もったいない」という言葉が日常にあふれ、洋服はおさがりを着まわし、電気製品などのちよっとした故障は自分で修理するといった、ひとつの物を少しでも長く使い続けようとする生活は当たり前のことでした。

現代は、「物があふれた時代」「飽食の時代」などと表現されるように、物質的に豊かになりました。使い捨ての商品があふれ、新型の商品も次々に発売されています。このような経済社会のもとでは、物を大切に長く使うということは難しく、短い周期で買い替えるをするライフスタイルが定着していききました。これは必然であり、ある意味、仕方のないことです。

しかし、このような社会のしくみが、ごみを増加させてきた大きな要因なのです。私たちは「豊かな暮らし」を手に入れましたが、その代償として地球上の限りある資源の浪費を続けながら、「ごみの増加」というとても大きな「つけ」をもらうことになったのです。

## ごみ問題の「今」

ごみの増加は不法投棄以外にもさまざまな悪影響を与えます。家庭からごみステーションに出されたごみは回収後、再生利用が可能な資源物（ビン缶・ペットボトル・新聞など）以外のごみは、焼却するか埋立処分を行うこととなります。

**● 焼却時のCO<sub>2</sub>排出による温暖化**  
大津町の家庭から出るごみ全体の8割以上を占める可燃ごみは、焼却時に温室効果ガスである二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）が発生するため、地球温暖化を進める原因になります。今でも可燃ごみの中には資源物として再利用できるものがたくさん混じっています。ごみのリサイクル・減量化を推進するためには、日頃からきちんと分別する必要があるとあります。

**● 埋め立て場所の不足**  
不燃物や可燃ごみの焼却灰は埋立処分をしますが、埋立用地が満杯になれば、次の用地を確保しなければいけません。国土が狭い日本では、次々に広い用地を確保することはとても難しいことです。

**● 高額なごみ処理費用**  
ごみが増えれば、ごみ処理費用も増えます。大津町は、ごみ処理施設の集約化による経済性のメリットなどを考慮して、大津町を含む2市2町で「菊池環境保全組合」（以下「組合」）を組織し、ごみの広域処理を行っています。平成23年度のごみ処理負担金として、大津町は組合に約2億7千500万円を支払いました。その財源は「町指定ごみ袋」の収入が約14%で、残りは税金でまかなっている状況です。

組合に支払う負担金の額は、ごみの排出量によって決まる仕組みになっています。ごみの排出量が減れば負担金は安くなり、逆に排出量が増えれば負担金は高くなってしまいます。

ごみは環境面への影響だけでなく、経済的な面でも私たちの暮らしに大きな影響を与えます。さまざまな面で考慮し、ごみを減らすことが強く求められています。